

市民の安心と笑顔のために

No 402 2026年4月2日 日本共産党札幌市議団 事務局 TEL 211-3221/fax 218-5124

「70歳以上」からの対象変更で吉岡弘子市議（3月6日予特）

福祉除雪の利用希望聞き取り、対象範囲は柔軟に

札幌市は新年度から、重度障がい者の他、現在の70歳以上で除雪が困難な市民が利用できる「福祉除雪」制度の対象者を、「介護認定と介護サービスの継続利用」の市民に変更し、福祉除雪に携わるボランティアの活動費を2万1000円から2万3000円に引きあげるとしました。

制度変更による利用者減が見込まれることで、吉岡市議は、介護サービスの継続利用に当てはまらない突発的な病気やケガで除雪ができない場合の対応が必要であり、対象要件に合わない申請をあきらめる市民が出かねないことや、除雪が困難であっても申請にたどり着かない市民が出かねないことを指摘し、福祉除雪を希望する理由等の具体的な聞き取り調査等を考えているのか質問。これにたいし、担当部長は、社会福祉協議会がこれまで通り利用対象者への聞き取りをおこなうとし、対象要件に当てはまらない方の状態についても民生委員などで聞き取りの対応をおこない利用の可否を検討していくと答弁し、機械的に対象外とはしないと説明しました。

一方で、新たに社会福祉協議会や区役所の事務負担の増大が予想されることについて、「体制を強化するなどの考えや、対応をどうされるのか」との質問にたいして、担当部長は、社会福祉協議会から民間コンサルタント事業者への委託により、「事務の効率化や負担軽減策を検討している」ことを明らかにしました。

■受診率向上へ市として受診勧奨を がん健診の精密検査

3月10日予算特別委 吉岡弘子市議

吉岡市議は、がん検診の精密検査受診率を向上させるため、市による未受診者への積極的受診勧奨を求めました。

がんは市民の死因の1位です。市の国民健康保険特定健診（とくとく健診）は、生活習慣病の予防、早期発見を目指すもので、がん検診との同時受診が可能ですが、医師からは、がんの可能性が疑われる人を見極める一次検診、がんかどうか詳しく調べて確定診断するための精密検査ともに、札幌市の受診率は低いとの指摘があります。

市は、がん検診の精密検査受診率について、胃がん53.3%、大腸がん49%、肺がん67%、乳がん69.7%、子宮頸がん45.3%で、全国平均から低く、「早期発見、早期治療を確実なものとするためには、精密検査の受診率向上に向けた取り組みは大変重要」との認識を示しました。

厚生労働省はがん検診の精密検査の受診率について90%を目標とし、札幌市の第2次がん対策推進プランも同様ですが、札幌市は、最初にごん検診を受ける1次医療機関と情報を共有し、精密検査未受診の正確な把握に努め受診率の向上を図る課題と対策について、精密検査の結果報告がない方のリストを作成し、がん検診を実施した医療機関に照会して、再度、精密検査の受診状況を確認してもらうというもので、医療機関への報告がない未受診者への働きかけについては、一般的な啓発事業にとどまっています。

吉岡市議は、がん検診の推進をサポートセンターを整備して取り組んでいる事例や、精密検査の受診勧奨を文書で通知している事例にも学んで、市としての具体的な検診率向上策に乗り出すよう求めました。

